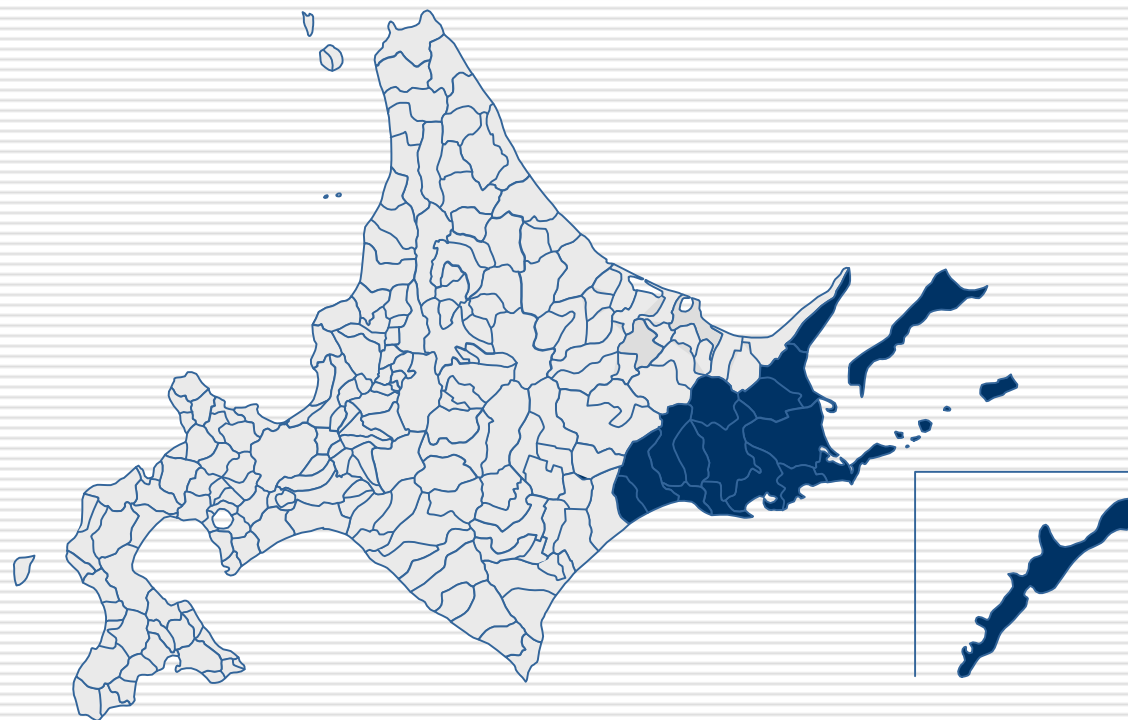


釧路・根室地域の現状と目指す将来像 ¹

関連事例



安全・安心で質の高い食産業の構築

担い手不足に対応した効率的な産業構造の構築

漁港の屋根付き岸壁による就労環境の改善

防雨、防雪機能等を備えた屋根付き岸壁の整備は、就労環境の改善と同時に、水産物の品質、衛生管理の向上にも資する。現在は羅臼漁港と標津漁港において、その整備が進んでいる。

この2漁港がある羅臼町、標津町の漁業経営体数は455(平成15年、以下同じ)で、釧路・根室地域の13.1%を占めている。他地域と同様に従業者の高齢化や担い手の減少などが課題となっているが、効率化などが進んでおり、漁獲金額が173.4億円と同地域の23.3%となるなど、経営体当たりの漁獲金額は高い。



安全・安心で質の高い食産業の構築

担い手不足に対応した効率的な産業構造の構築

浜中町就農者研修牧場（事例）

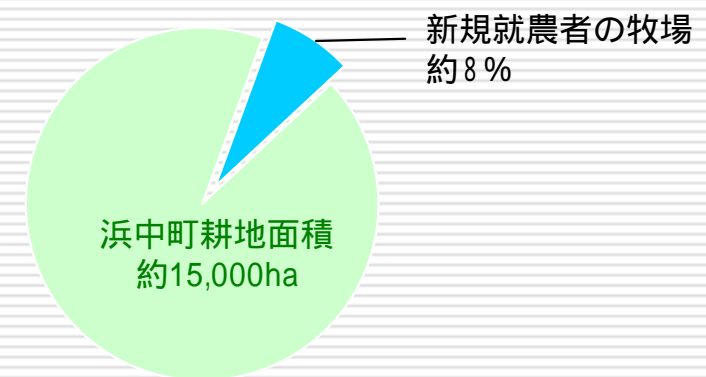
浜中町では、全国に先駆けて「新規就農者研修牧場」を建設し、乳牛100頭を擁する近代的な設備のもとで効率的に酪農技術を習得できる体制を整えた。

町では、この施設に酪農未経験者などの就農を希望する多様な人々を研修生として受け入れ、空き牧場が発生したときに、技術の習得状況によって研修生にその牧場を紹介しているが、現在までに町内に7組の牧場が開設している。

現在、浜中町全体の耕地面積は約15,000haであるが、新規就農者による牧場はそのうち1,127.4ha(23戸、うち研修終了者11戸)であり、全体の約8%を担っていることになる。

【研修終了者の牧場が占める耕地面積の割合】

【浜中町就農者研修牧場】



資料) <http://city.hokkai.or.jp/~milkfarm/intor/intro.htm>ほか

安全・安心で質の高い食産業の構築

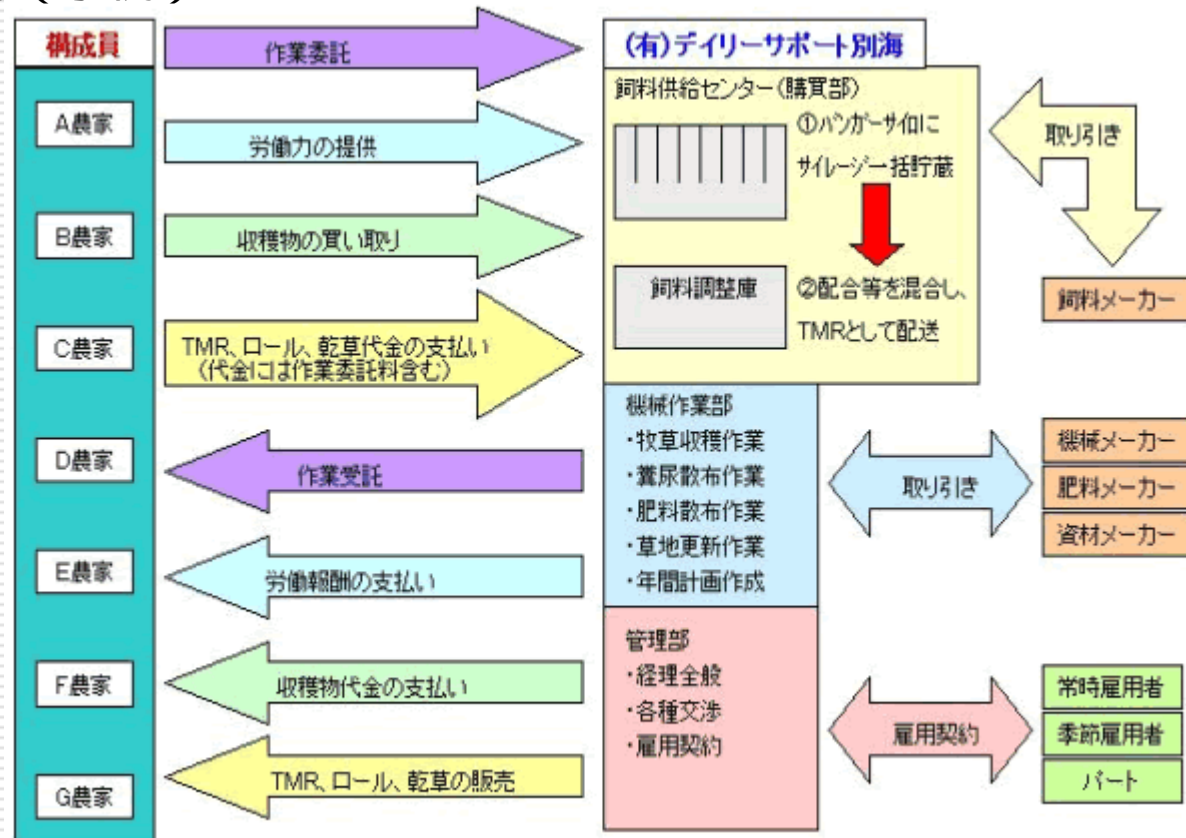
担い手不足に対応した効率的な産業構造の構築

デイリーサポート別海（事例）

有限会社デイリーサポート別海は、増頭や草地面積の拡大で労働力が限界にきていること、草地面積の拡大に伴って適期収穫、良質粗飼料の確保が困難になっていることなどに対応するため、平成13年に設立された。

なお、設立当時の出荷乳量9,023トン、個体乳量608キロから、平成16年にはそれぞれ9,961トン、712キロと規模拡大、効率化が図られている。

【デイリーサポート型システムの概要】



資料) <http://www.aurens.or.jp/TMR/betsukai/index.html>ほか

安全・安心で質の高い食産業の構築

担い手不足に対応した効率的な産業構造の構築

有限会社トミーランドは、下雪裡地区の6戸の酪農家が協業し、平成8年から法人経営を開始した。近年、農畜産物の自由化が進むなかで、国際化に対応した足腰の強い酪農づくりと従来の個人経営での労働面を改善することを目的として設立された。

農場には、フリーストールやパーラーシステム、ふん尿処理のための固液分離施設、コンピューターによる乳牛飼養管理システム等を導入し、生産性の高い酪農経営と魅力ある牧場づくりを目指している。

【トミーランド牧場のメリット】

農場の沿革

- ・事業開始 1996年1月1日
- ・参加世帯 6戸
- ・従業員数 15名(役員5名、社員5名、パート5名)
- ・経営面積 269ha(草地227ha、耕地32ha、放牧地10ha)
- ・家畜頭数 705頭(経産牛430頭)
- ・出荷乳量 1日約9,600キロ

法人経営のメリット

所得・社会保障の充実

- ・年間所得一人5,000千円
一家族8,550千円
- ・労働保険、健康保険、厚生年金、福利厚生充実
- ・退職金制度の導入

労働時間短縮

- ・他産業なみの労働時間
(年1,700~2,000時間)
- ・4週6休の導入
- ・婦人労働の軽減

国際化への対応

- ・将来の乳価低下に対応
- ・生産調整に柔軟に対応

担い手育成・確保

- ・新規就農希望者の研修及び受け入れ
- ・常時雇用の実績

農業従事者減少の阻止

- ・地域内再雇用の場
- ・地域への波及効果による生産意欲の醸成

環境に優しい農業

- ・自然環境との調和
- ・都市住民、消費者、観光客との交流

新政策の先取り・・・鶴居村農業発展に寄与

資料) <http://www.aurens.or.jp/TMR/betsukai/index.html>ほか

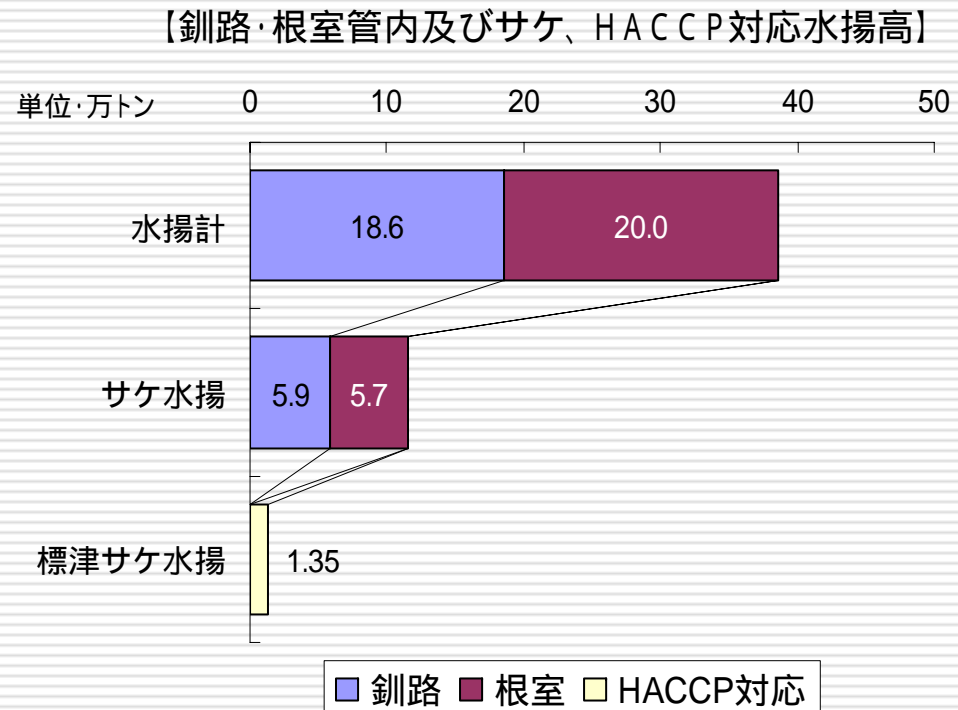
安全・安心で質の高い食産業の構築

豊かな自然を享受した安全・安心な「食」の生産

HACCP対応の水産物の割合

食の安全・安心に向けた取り組みとしては、HACCP対応などが挙げられるが、釧路・根室地域の水産物に関する対応は標津漁港で水揚げされるサケがある。

なお、この水揚量は年間(2004年)13,500トンであるが、これは地域全体の水揚量(38.6万トン)の3.5%、地域のサケ水揚(11.7万トン)の11.5%となっている。



安全・安心で質の高い食産業の構築

豊かな自然を享受した安全・安心な「食」の生産

資源循環型農業に向けた取り組み

釧路・根室地域における、家畜ふん尿などの資源循環型施設数は7施設となっている。
これら施設の利用頭数をみると、合計で2,670頭となっており、地域全体の29.7万頭のおよそ0.9%となっている。

【釧路・根室地域における資源循環型施設の状況】

| 名称 | 運転開始 | 発酵槽容量 立米 | ガス発生量 立米/日 | 利用戸数 戸 | 利用頭数 頭 | 耕地面積 ヘクタール |
|------------|------|-------------|---------------|-----------|-----------|---------------|
| 仁成ファーム | 2001 | | 600 | 1 | 270 | |
| 開新牧場 | 2004 | 540 | 1,016 | 1 | 650 | 210 |
| 清和牧場 | 2004 | 470 | | 1 | 430 | 263 |
| 藤田牧場 | 2003 | | 480 | 1 | 110 | |
| 別海町酪農研修牧場 | 1999 | | 8 | 1 | 40 | |
| 別海資源循環試験施設 | 2001 | 1,500 | 1,500 | 9 | 1,000 | |
| J A 別海水沼牧場 | 2001 | 200 | 330 | 1 | 170 | |

資料) 釧路開発建設部

安全・安心で質の高い食産業の構築

豊かな自然を享受した安全・安心な「食」の生産

標津町は、秋鮭の生産量日本一を誇るが、積極的な衛生対策等地域をあげた水産物の品質高度化に対する取り組みのなかで、標津町地域HACCP推進委員会が設立された。

日本初の「水産食品安全管理システム」地域HACCPの実践

推進委員会の目的は、標津の豊かな海から獲れる秋サケやホタテ等の水産食料資源を「安心・安全で高品質」な状態で食卓届けるため、生産者から市場・加工場・運送業まで地域一体となって、従事者の健康管理、環境調査、衛生教育(人材育成)、生産・製造管理の記録等を実施し、地域HACCPを実践している。

またこれらの証として製造された製品には、認定査察後に「地域ハサップ認証製品」として認定し、「地域ハサップシール」を貼付する取り組みも実施している。



資料) <http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/profile/foresight/2004autumn/02.html>ほか

安全・安心で質の高い食産業の構築

食の高付加価値化・ブランド化の推進(マリンビジョン)

マリンビジョンでは、1.水産物の安定供給基盤の確保、2.環境保全と循環型社会の構築、3.安全・安心な水産物の安定生産体制の確保、4.漁村・地域の総合的な振興を目指すべき姿として掲げており、地域の総合力向上やブランド化が期待されている。

羅臼漁港： 屋根付岸壁や低温清浄海水導入施設など
都市漁村交流の体験学習拠点や観光船発着施設など

落石漁港： 屋根付岸壁や清浄海水導入施設など
増養殖などの蓄養施設や海水交換施設、自然調和型施設など
都市漁村交流のための漁港内公園や直販施設、海のフットパス

【羅臼漁港屋根付岸壁】



【羅臼漁港低温清浄
海水取水管敷設状況】



【屋根付岸壁上での低温清浄
海水の利用想像図(サケ漁)】

資料) 釧路開発建設部調べ

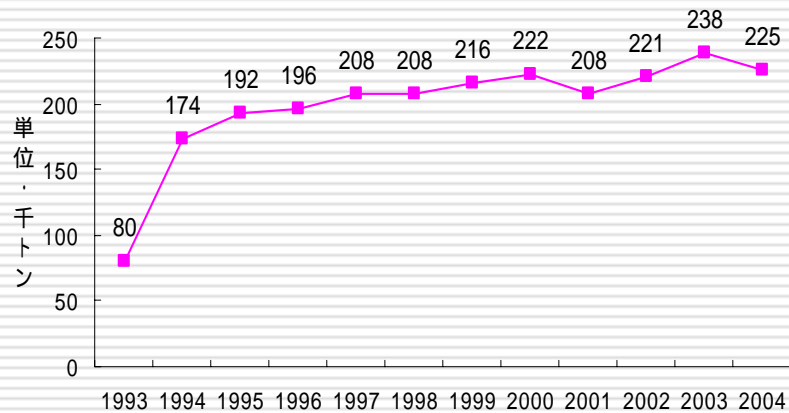
安全・安心で質の高い食産業の構築

輸出を含めた販路開拓拡大を支える物流機能の充実

生乳の物流に関する取り組み（ほくれん丸）

釧路・根室地域では、年間約133万トンと日本一の生乳生産量(全国の約1割)を誇っているが、「ほくれん丸」の就航により、道外向け出荷が活発化しており、1997年以降は20万トン台で推移している。

【ほくれん丸及び第2ほくれん丸生乳移出実績推移】



資料) 釧路開発建設部調べ

安全・安心で質の高い食産業の構築

輸出を含めた販路開拓拡大を支える物流機能の充実

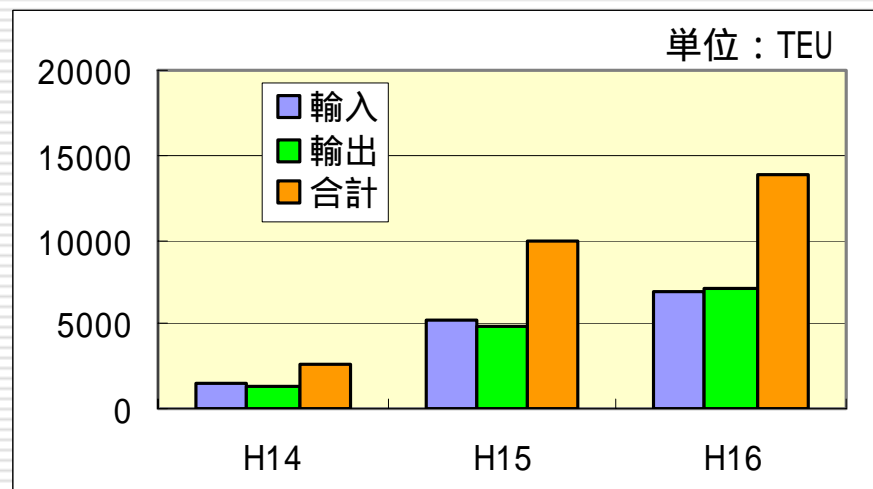
外貨コンテナ貨物

釧路港の第4埠頭において - 14m岸壁が供用開始となり、平成14年8月より韓国・釜山港との外貿コンテナ定期航路が開設された。

平成16年は通年運航2年目となったが、輸出・輸入とも大幅に増加し、全体で13,873TEUと前年比39%の伸びを示した。このように外貿コンテナ貨物の取り扱いが好調であったことから、平成16年には臨時便が12便運航し、定期便と合計で64便が運航された。



【釧路港における外貨コンテナ貨物の推移】



TEU) 20フィートコンテナに換算してコンテナの数量を計る単位。20 Footer Equivalent Unit。

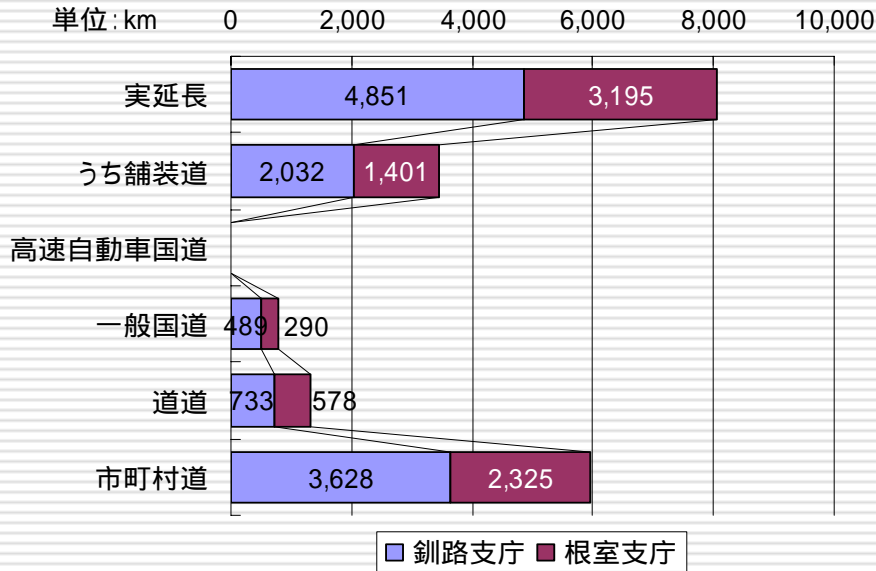
資料) 外貿コンテナ貨物の推移 (北海道開発局調べの速報値)

安全・安心で質の高い食産業の構築

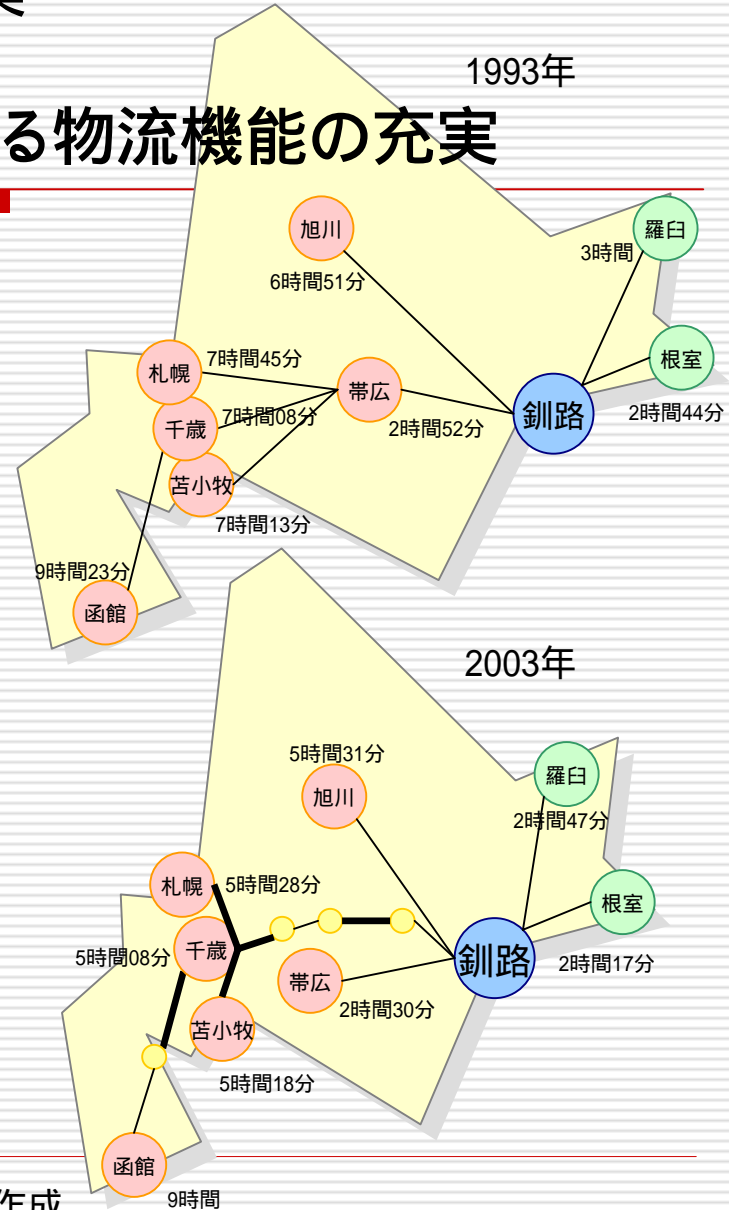
輸出を含めた販路開拓拡大を支える物流機能の充実

札幌や旭川などの移動時間は、高速道などにより20%以上の短縮化が図られている。
 一方で管内の道路実延長距離は8,046kmとなっているが、根室や羅臼、近隣の帯広などの時間距離はあまり短縮化が進んでいない。

【管内道路普及率】



【道路による移動時間の推移】



資料) 北海道の道路ポケットブック2004 (北海道開発局) 等により作成

安全・安心で質の高い食産業の構築

輸出を含めた販路開拓拡大を支える物流機能の充実

釧路 - 台湾ビジネスマッチング協会は、地場産品の台湾への販路拡大を図るとともに、台湾とのさまざまなビジネス交流を通じ、釧路地域ビジネスの国際化・活性化を推進することを目的として、平成17年7月に設立された。

平成17年9月の商談会では1社、平成18年2月は5社から見積依頼(いくら、かに、昆布加工品など)があったが、今後は価格、流通など課題をクリアして、具体的なビジネスにつなげていく取り組みを進めていく予定でいる。

平成17年9月

釧路の水産関係団体と連携し、台湾及び香港のバイヤー(7社11名)を招致しての商談会開催

平成18年2月

台湾流通関係事業者約30社を現地ホテルに招致し、釧路からの出店事業者12社によるサンプル商品PRと個別商談会の実施

【台湾における
釧路観光物産展の様子】



資料) 週刊水産新聞などより作成

自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

環境との調和や産業と連携した観光メニューの提供

地域の体験型観光等の動向

釧路・根室地域には、ラフティングやホーストレッキングといった他地域でも見られるもののほか、より地域に密着した産業体験(牧畜、酪農、畑作、水産業、林業)や自然再生事業(植林、育林、外来植物除去)、文学体験(石川啄木など)、歴史発掘(縄文、擦紋、アイヌ文化)、食文化史(世界的固有種シシャモ、釧路ラーメン、丹頂ソバ)などのツアーを提供するNPOもあり、数年前の年間約2.5千人から、現在では4千人程度の規模にまで達している。

その他では、期間限定あるいは単発的な営業を行っているところが多く、事業者やイベント毎の年間利用者数をみると、数十人から数百人程度となっているところが多い。

【釧路魚河岸ツアー】



【酪農体験ツアー】



資料) 各種新聞記事等により作成

自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

環境との調和や産業と連携した観光メニューの提供

体験型観光のほか、地域における新たな観光メニューについて、新聞記事などから整理すると、主要なものとしては、以下の12ツアーが挙げられる。

これらは単発的、イベント的な色彩が強く、例えば厚岸古番屋冒険ツアーはピーク時でおおよそ1,500人、アザラシウォッチングツアーも例年100人程度の集客があるが、その他について数十人といった規模が多く、マスツーリズムにはそぐわない面もあるが、多様化するニーズへの対応や他との差別化といった視点からすると、になうべき役割は大きい。今後はこれらツアー数の増加のほか、PRなどによる集客力の確保なども重要となる。

【地域における新たな観光メニュー】

- ・厚岸古番屋冒険ツアー、別寒辺牛湿原カヌーツーリング、アザラシウォッチングツアー、アサリ掘り体験ツアー（以上厚岸町）
- ・魚河岸ツアー、石炭ツアー、パルプ港湾ツアー（以上釧路市）
- ・タンチョウ写真撮影ツアー（阿寒町）
- ・あったかふるさと再発見ツアー 青い海コース（釧路町）
- ・しばれ体験ツアー（鶴居村）
- ・バードウォッチング（根室市）
- ・スギ花粉リトリート（避難）ツアー（上士幌町）

【アザラシウォッチングツアー】



資料) 各種新聞記事等により作成

自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

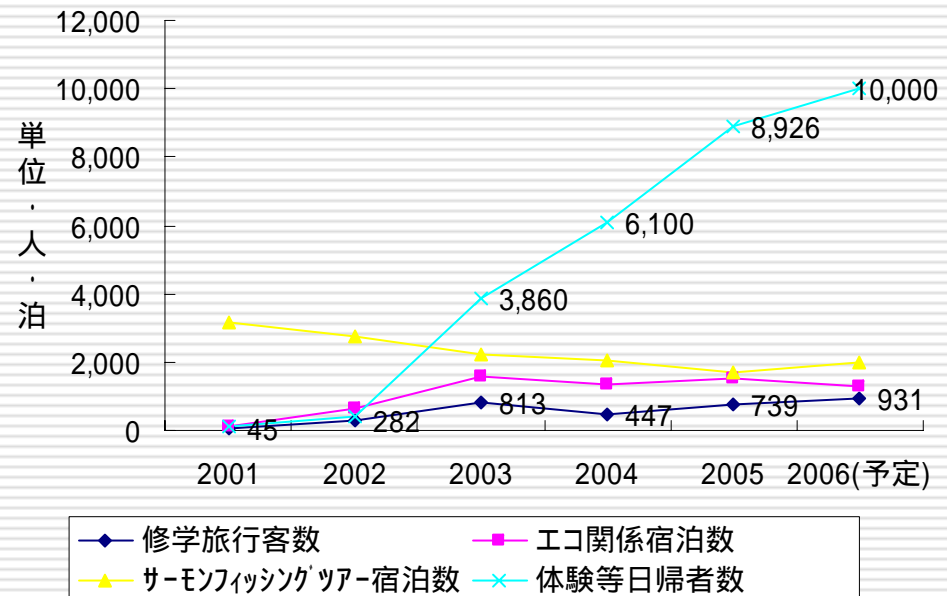
環境との調和や産業と連携した観光メニューの提供

標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会では、豊かな自然環境や農業・漁業などを活用し、地域HACCPでの水産現場の見学、加工体験、河川でのサーモンフィッシング体験、山菜ツアーなど地域のあるがままの自然、産業活動を体験してもらうため、地域一体となって都市住民との交流を行っている。

また、「町民ガイド」制度を作り、漁業、加工、フィッシング、山菜採り等の体験学習の場において、町民をガイドとして育成し、現地での対応を行っている。

これらの活動により、「体験交流の町」として中高生の修学旅行など、観光客が年々増加しており、2006年度は修学旅行客931人、日帰り体験1万人の受け入れを予定している。

【エコツーリズム交流事業の活動実績推移】



資料) 標津町資料により作成

自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

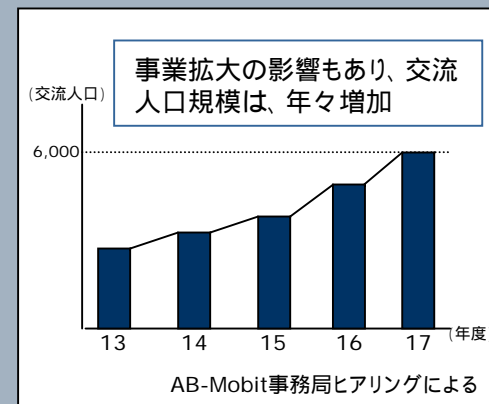
環境との調和や産業と連携した観光メニューの提供

【酪農体験】

酪農家集団「AB - Mobit」は、農村と牧場の持つ素晴らしい景観と安らぎの空間を都市住民との共有財産として楽しみ育み、また消費者の牧場体験や牧場散策、牛とのふれあい等により酪農業への理解を深めてもらい、さらにはこれらの地域と都市住民との交流を通して地域の営農継続意欲の高揚や地域の活性化につながる活動を行うことを目的に5戸の酪農家が参加し、設立された。



- ・平成13年 「ピュアビレッジ構想」を策定、西厚床と富岡牧場にキャンプ場を計画
- ・平成14年 ミニワークショップによりキャンプ場を富岡牧場に設置することを決定
- ・平成15年 厚床駅～富岡牧場10.5キロのコース整備、農業、農村交流館完成
- ・平成16年 第2回根室フットパスワークショップ開催、キャンプ場基本施設に着手。調査・整備ウォーク(参加19名)、標津線廃線跡ウォーキングツアー(同41名)等実施
- ・平成17年 第3回根室フットパスワークショップ開催のほか、「築拓キャンプ場」とフットパス海岸コース(20キロ)、AB - Mobit食多楽クラブ(農産物加工体験、そばの栽培やそば作り等)を立ち上げた



資料<http://www8.ocn.ne.jp/~abmobit/nemurofootpaths/nemurofootpath1.htm>ほか

自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

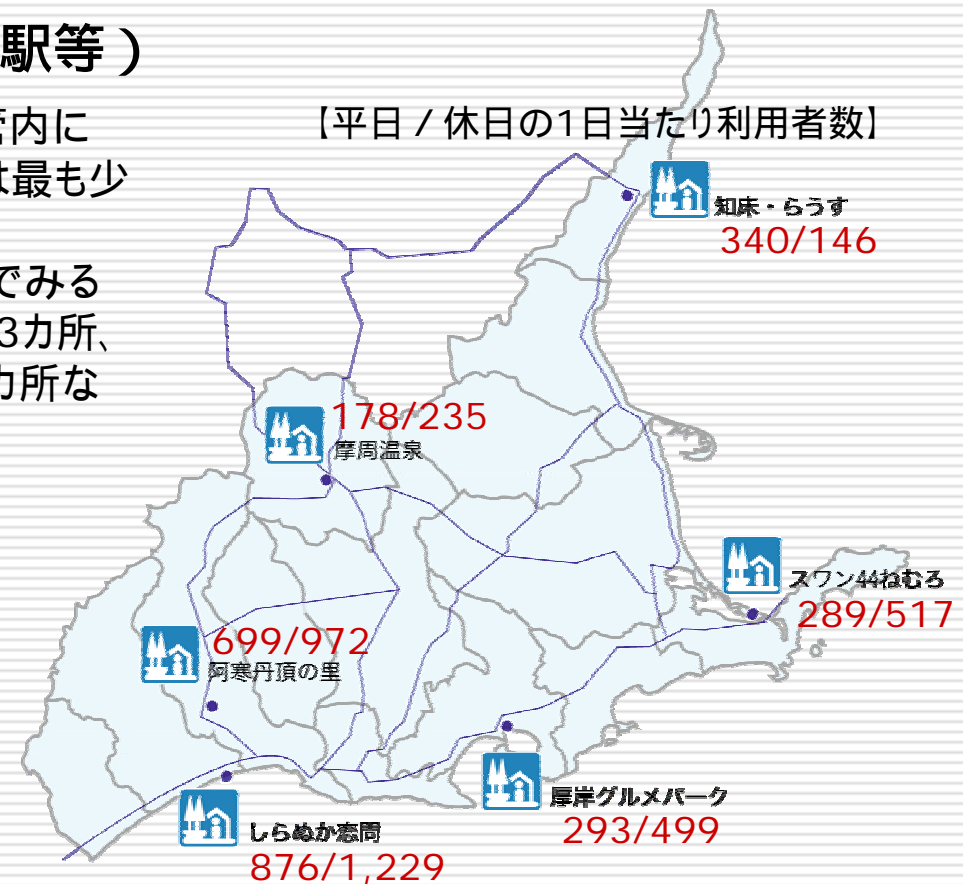
国際化や個人観光に対応したサービス・情報の提供

観光情報の提供場所等（道の駅等）

北海道に92カ所ある道の駅だが、管内には6カ所となっており、道内の圏域では最も少ない(最も多いのは道央の35カ所)。

また、面積比(100平方キロ当たり)で見ると4.1カ所に止まっており、道央の15.3カ所、道南の15.2カ所、オホーツクの14.0カ所などに比べ見劣りする。

また、施設内にある情報端末の利用状況を見ると、休日の厚岸では施設利用者の3割弱が利用しているが、その他では1割にも満たない。なお、その内訳は、天気(19.0%)や道路画像(18.1%)、道路情報(16.7%)が上位で、「みどころ」は14.6%の利用となっている。



自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

広域的連携による観光産業の振興

シーニックバイウェイとは、「みち」をきっかけに地域住民の方々と行政とが連携し、景観をはじめとした地域資源の保全・改善の取組を進めることにより、美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりを図るものである。

なお、平成17年には「シーニックバイウェイ北海道」が本格的に施行、「東オホーツクシーニックバイウェイ」もその指定を受けたことにより、沿道の植栽や清掃活動、コンサートやバスツアーの開催、地域の魅力やイベント情報の提供などが行われている。



資料<http://www.scenicbyway.jp/index.html>ほか

自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

広域的連携による観光産業の振興

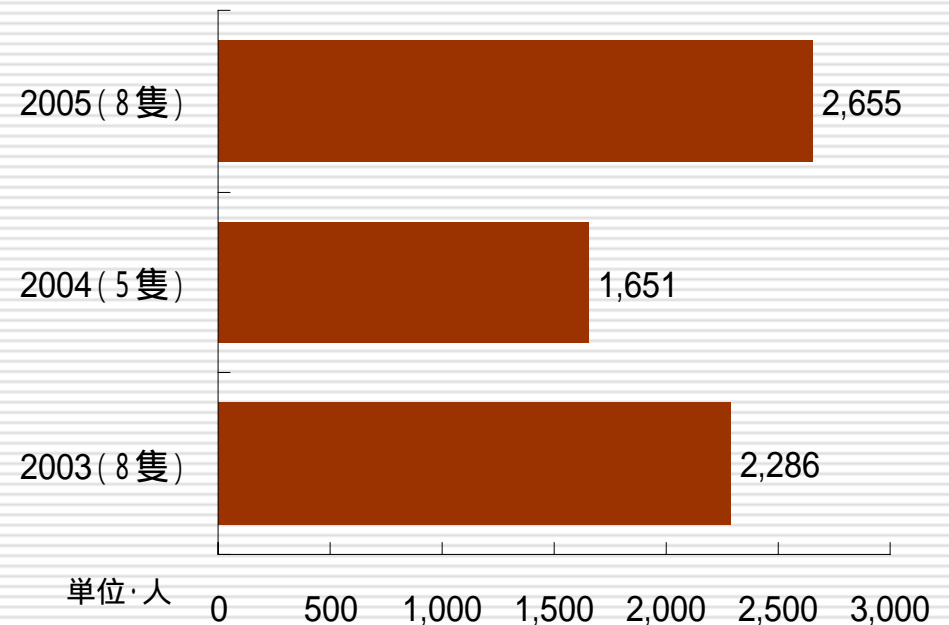
釧路港寄港客船の状況

釧路港に寄港した客船は、2005年で8隻、乗客数が2,655人となっている。

このうち航路に海外を含むものは4隻(446人)となっており、2003年、2004年の2隻から増加しており、地域の観光に寄与している。



【釧路港における旅客船乗降客数の推移】



資料) 釧路開発建設部